

市民の皆様と議会をつなぐ

 議会だより

ふんご おおの



31人が集う

豊後大野市誕生に伴い、4月24日に設置選挙が行われ、31人の議員が選出されました。決意も新たに、いよいよ新しい市議会のスタートです。

目次 CONTENTS

議会の構成	…2～3
特集（地方振興局存続）	…4～5
平成17年度予算	…6～7
請願・陳情	…8
一般質問	…9～17
キラリ★ひと言	…18～21
編集委員紹介	…22

創刊号

平成17年9月1日 発行

第一歩

5月17日
議会構成 決まる



ごあいさつ
議長
若松 成次

新市発足に伴う選挙により当選した私たち31名は、5月17日に招集された初議会にて議会構成を行い、豊後大野市議会としての体制を整え船出をいたしました。豊後大野市誕生までの道のりは険しく、さまざまな問題も浮上しましたが、皆様のご理解のもと7カ町村の気持ちを一つにするこ

とで、合併が成し遂げられたと思っております。今後は、開かれた市政・議会により、心を合わせ豊後大野市発展のため努力していきたいかなければなりません。私は、豊後大野市議会初代議長として、充実活性化された議会づくりを努め、市政を批判し監視するだけでなく、働きかけ、行動する議会をモットーに、市政発展のため誠心誠意努力いたして参ります。

また、市民お一人おひとりの対話を大事に、声なき声を道標とし、きめ細やかな行政を実現することこそが、我々議会に課せられた使命と確信しております。また、これを実行していく所存でございます。市民の皆様には、市議会を身近な存在に捉え、大いにご意見をお聞かせください。また、大いにご意見をお聞かせください。また、大いにご意見をお聞かせください。

副議長

小野 泰秀



この度、議員各位のご推挙により、副議長の要職に就くことになり光栄に思っております。同時に責任の重さを痛感いたしました。

幸いにも優れた若松議長のもと、市政の確立と円滑な市議会の運営にひたすら

精進し、この職責を全うする決意であります。

ところで議会は市政を推進する車の両輪として市政発展・市民の福祉向上のために全力を尽くします。

一方、市民の負託を受けた議会としては、市民の目線から市政が公平・公正に執行されているかを厳正にチェックし、積極的に提言、提案を行い、市民の期待と要望に添えていくのが議会の役目であると考えます。

そして、議会と執行機関は相対し、均衡を保ちつつも、主張すべきは主張し、

足りないものあればこれを補い、譲るべきものあればこれを譲る。

すなわち何が市の利益となり発展をもたらすのか、何が住民福祉の増進となり幸福をもたらすのか、住民の不安は何か、これに対処すべき解決の道は何かなど、両者は真剣に政策を論じ合うことこそが地方自治行政の姿であると思えます。

今後とも、議会の活性化に積極的に取り組み、議会広報の強化を図り、多くの市民の方々に関心を持ってもらえる議会を目指してまいります。

新しいまちづくりの

● 厚生文教常任委員会 ●



副委員長

深田 正和
(清川)



委員長

佐藤 辰己
(大野)



恵藤千代子
(千歳)



橋本 祐輔
(緒方)



衛藤 竜哉
(緒方)

委員



深田 征三
(三重)



生野 照雄
(三重)



赤嶺 謙二
(三重)



後藤 章子
(朝地)



三浦 正吉
(三重)

● 総務常任委員会 ●



副委員長

衛藤 正宏
(大野)



委員長

浅野 益美
(朝地)



長野 健児
(犬飼)



佐藤 生稔
(三重)



小野 順一
(三重)

委員



伊藤 憲義
(緒方)



小野 栄利
(三重)



津高 栄治
(清川)



神志那宗作
(三重)



宮成 昭義
(千歳)

● 産業建設常任委員会 ●



高山 豊吉
(犬飼)



安藤 豊作
(朝地)



佐藤 徳宣
(清川)



羽田野昭三
(大野)



宮成 寿男
(千歳)

委員

委員長



小野 泰秀
(三重)



渡邊 一文
(緒方)



宇薄 克哲
(三重)



清田 満作
(大野)



首藤 正光
(三重)

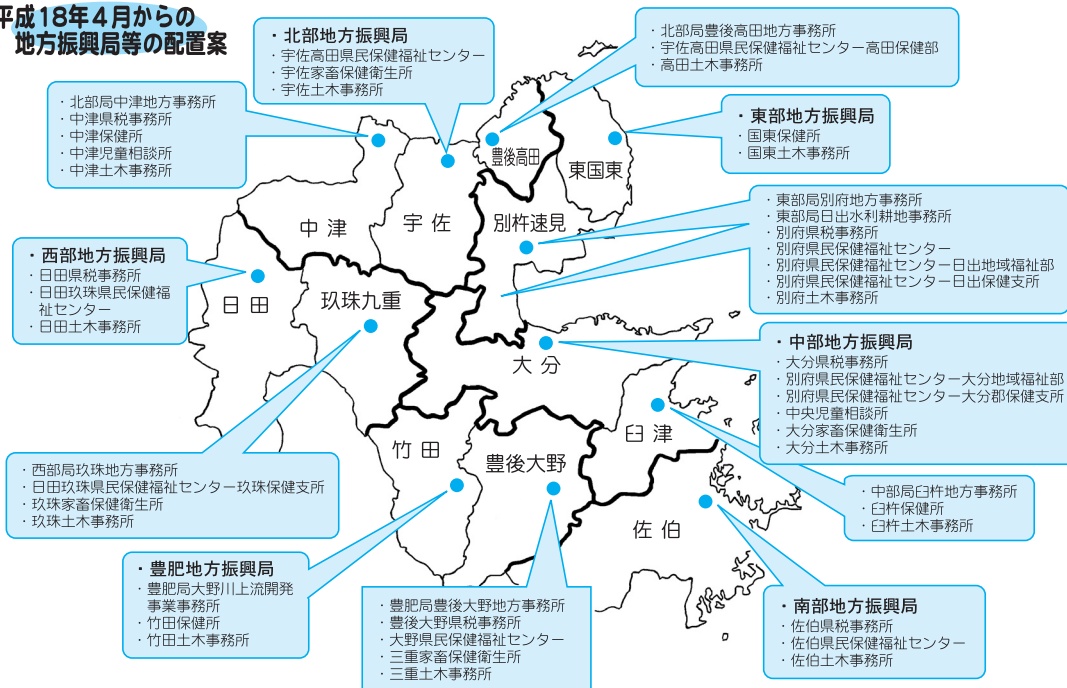
副委員長

■ 議会運営委員会
委員長 三宮 浅
副委員長 佐藤 成
委員 宇宮 薄
長 克寿

三宮 浅
成 薄
成 野
昭 益
正 辰
吉 美
義 己
正 男

特集 大野地方振興局の 存続を

平成18年4月からの 地方振興局等の配置案



※ ●は現在の地方振興局の設置場所

大分県知事 広瀬勝貞様

平成17年8月18日

抗議文

貴職におかれましては、県政発展にご尽力されていることに深甚なる敬意を表します。

また、新生豊後大野市の振興につきましても、格段のご支援を賜っていることに対し、厚く御礼を申し上げます。

さて、大分県の行財政改革プランに基づく地方振興局等の再編問題につきましても、私ども豊後大野市議会は新市に振興局の存続は絶対必要であるとの意見統一を行い「地方振興局存続対策特別委員会」を全議員で設置し、これまで貴職にその要望を強く訴えて参ったところでございます。

ところが、8月9日に貴職から発表された地方振興局等の再編に伴う素案の内容を見る限り、市民をはじめ私どもの想いとかけ離れたものであり到底容認できるものではありません。

疑問に感じる大きな点は、これまで繰り返し述べさせてきたきましたが、豊後大野市を始め多くの自治体が市町村合併の直後、または合併途中であり、新市づくりに県の指導、助言がこれまで以上に重要な時期にもかかわらず、なぜこの時期に再編統一を急ぐのかということです。とりわけ豊後大野市は、町村だけで市政を敷いた初めての市であり地方振興局の存在が極めて重要であることは、これまで再三にわたって主張して参りました。

次の疑問として、地方振興局等の庁舎配置が、何故、豊後大野市ではなく竹田市なのかという点です。県の再編案の基本的な考え方や地方振興局の庁舎配置の原則を見る限り理解ができません。再編される振興局の主要業務として農林業施策の展開が挙げられていますが、現状で第一次産業指標に相違がない以上、むしろ、将来を展望し、農業大学校や農林関係の試験場を有している豊後大野市において人と施設の有機的結合を重視すべきと考えます。加えて同じ中山間地帯にある地域としては、当然のこととして、この原則に人口や面積を加味すべきであり、そのことが配慮されていないことも大きな疑問です。

さらに、2008年国民体育大会における競技種目、とりわけ馬術競技では豊後大野市の財政事情や市民感情を超える苦渋の決断をし、県へ協力を行ってきたにもかかわらず考慮されなかったことも大いに不満の残るところです。

以上、豊後大野市議会としては、率直に申し上げて地方振興局の再編については、必ずや豊後大野市に存続されるものと確信していただけに、今回の発表は我々市民を落胆させ、県に対する不満と憤りを抱くものであります。

よって、地方振興局の存続に圧倒的支持をいただいた豊後大野市民の期待に応えるため再考をお願いいたしたく、豊後大野市議会はここに遺憾の意を表明し抗議いたします。

豊後大野市議会
地方振興局存続対策特別委員会
委員長 小野 泰秀

こんな再編案

納得でけん!!

今後は

12月の県議会が最終的なヤマ場となることから、特別委員会としては、市民の会と連携しながら、再編案の撤回・修正を強く求めていくことを確認した。

8月18日

県から福浦総務部長、田中行政企画課長、吉長大野地方振興局長、他二人の出席により説明を受ける。「到底、容認できない」「県は豊後大野市を見捨てるのか」など激しい口調で議会の考えを伝えた。同時に反対の抗議文をつきつけた。

8月10日

特別委員会を開き、「この再編案は絶対納得できない」との意見から、直接、県の説明を聞くことを全会一致で決定。

8月9日

県は、大野地方振興局を廃止して、新たに4年間を限度に「地方事務所」を置くことなどの再編案を発表。

県知事に 決議文

特別委員長 小野 泰 秀

大分県は、現在12圏域に地方機関を配置しているが半世紀以上が経ち、今では道路も整備され地方機関への県民アクセスも向上したこと、市町村合併が進んでいること、さらには深刻な財政状況にあることなどから地方振興局の再編、統合を行い、来年度から実施する計画であります。

県は一市に一地方振興局の設置はしないことから、大野地方振興局が竹田直入地方振興局の選択が考えられます。我々豊後大野市議会は、絶対に地方振興局は本市に残すんだという強い決意のもと、特別委員会を設置いたしました。

新生豊後大野市は、町村だけで合併した県内唯一の市であります。新しいまちづくりに懸命に取り組んで

いる中、振興局の移転はまちづくりの求心力や活力を失い、住民サービスの低下を招き、地域経済にも大きな影響を及ぼす恐れがあります。今後は市執行部を始め、関係する団体や市民と連携を図り、一丸となって地方振興局の存続の運動を展開してまいりたいと思います。



広瀬知事に存続を求める (7月15日)

「市民の会」 を結成

7月26日、午後7時よりエイトピアおおの(小ホール)において、結成総会が開催されました。各団体、自治会、市長以下執行部、そして議会の総勢約300人出席のもと、来賓として後藤県議・佐々木県議のお二人を迎え盛大に行われました。総会では、これまでの経過説明、本市としての基本的な考え方、当面する今後の取り組みなどが報告されました。

基本的な考え方としては、地方振興局の存続を本市発展の一つの条件として捉え、市執行部・議会を中心に各種団体はもとより、住民と一体となつて、その存続を県へ強く要望していくこと、執行部の取り組みとして



存続を求める市民が結集

414億円 で出発!

(企業会計を除く)

平成17年第1回定例会は、6月23日から7月15日までの23日間の会期で開催しました。

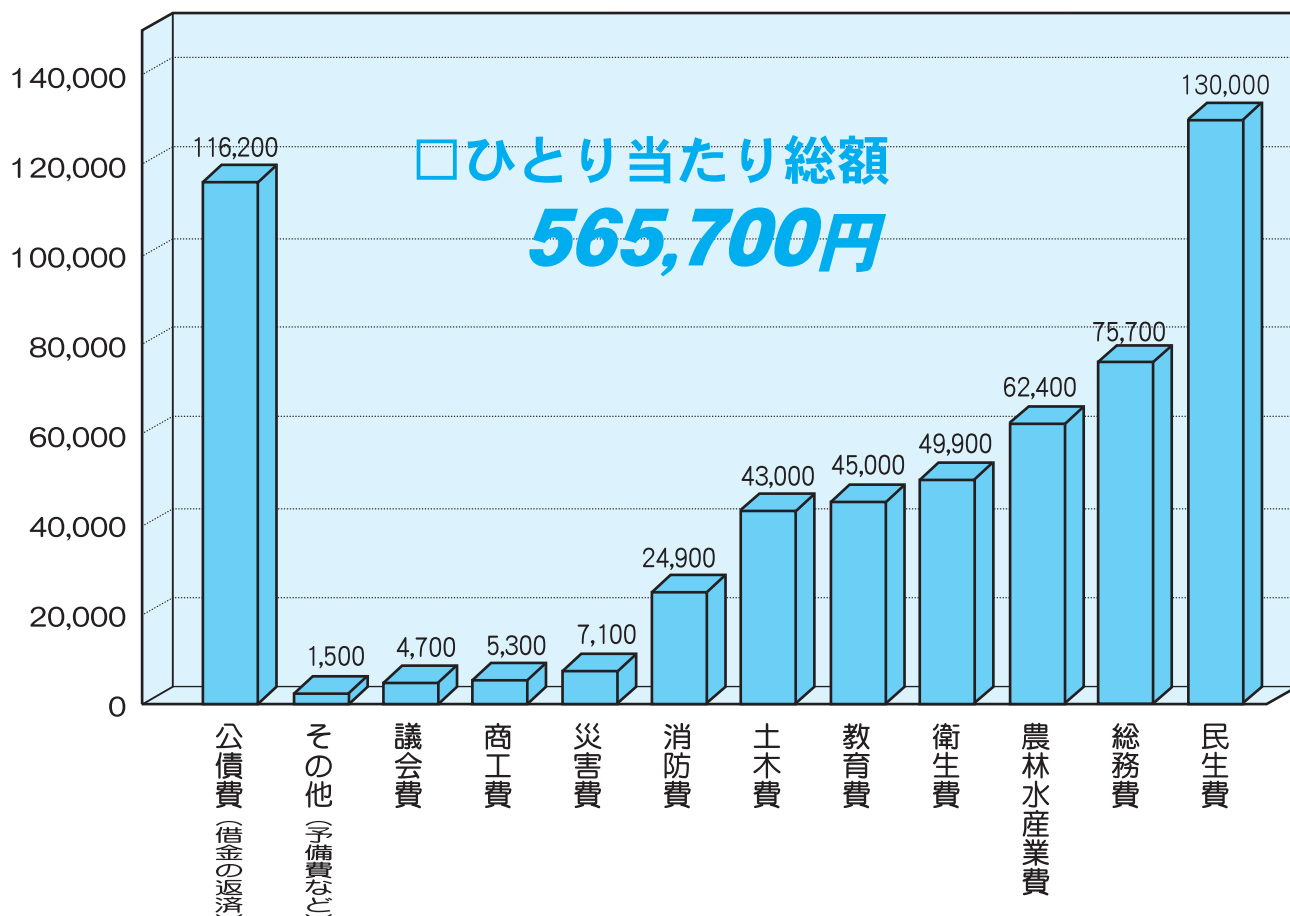
市長の提案理由の説明後、17年度の当初予算、特別会計、過疎地域自立促進計画など44の議案が提出されました。それぞれ審議を行い、全会一致または賛成多数で可決。

そのほか、請願5件、陳情1件は所管の委員会で対応しました。さらに旧緒方町馬場地区商業ゾーン整備事業の調査に関する決議など11の発議案件を慎重審議しました。

● 市民ひとり当たりの一般会計の現状 ●

〈 住民基本台帳人口 43,304人 (平成17年7月1日現在) 〉

(単位：円)



新市17年度予算

総額



平成17年度当初予算

会計名		予算額
一	一般会計	245億円
特別会計	国民健康保険	42億9,423万1千円
	国民健康保険直営診療所(清川)	9,170万4千円
	介護保険直営診療所(清川)	164万6千円
	老人保健	75億8,846万8千円
	介護保険	41億3,102万5千円
	農業集落排水	3億6,814万9千円
	公共下水道	8,958万2千円
	浄化槽施設	6,939万6千円
	簡易水道	3億3,718万1千円
	計	169億7,138万2千円
予算総額(企業会計除く)		414億7,138万2千円

会計名			予算額	
企業会計	上水道特別会計	収益的	収入(水道料など)	2億6,820万1千円
			支出(事務費、人件費、修繕費など)	2億4,227万5千円
		資本的	収入(起債、国県補助金など)	7,812万円
			支出(工事請負費、起債償還金など)	1億6,677万7千円
	病院立おがた総合特別会計	収益的	収入(医業収益など)	21億8,985万円
			支出(人件費、医薬品など)	23億2,992万円
		資本的	収入(一般会計繰入金など)	1億9,172千円
			支出(起債償還金など)	1億9,316万2千円

一般会計
245億円

旧町村
前年比
2.3%減

・ 請 願 案 件 ・ 7月15日の本会議の結果。

件 名	請 願 者 氏 名	紹介議員氏名	結 果
大分県地方最低賃金の引き上げと最低賃金制度の抜本的改正を求める請願	大分県労働組合総連合 議長 後藤 俊光	神志那宗作 後藤 章子	採 択
義務教育費国庫負担制度の堅持および30人以下学級の実現・複式学級解消を求める請願	大分県教職員組合大野支部 執行委員長 秦 伴秋	高山 豊吉 衛藤 竜哉 恵藤千代子	採 択
教育基本法の理念を生かし、実効性のある教育改革を求める請願	大分県教職員組合大野支部 執行委員長 秦 伴秋	赤嶺 謙二	不採択
米国産牛肉の拙速な輸入再開に反対し、BSEの万全な対策を求めることに関する請願	豊後大野市職員労働組合 執行委員長 和田 貴彦	赤嶺 謙二 首藤 正光 宇薄 克哲 宮成 昭義	採 択
国民生活の安心・安定を求める請願	日本労働組合総連合会大分県連合会 連合大分豊肥地域協議会 議長 江藤 喜啓	首藤 正光	採 択

・ 陳 情 案 件 ・

清川町砂田地区の「防火水槽の改修」

■陳情者 砂田地区 疋 田 田 金
他5名



老化の進んだ防火水槽（清川町砂田）

防火水槽の老朽化により、水漏れや周辺の鉄柵が錆付き、機能が低下しているため、改修を求める陳情です。

防災の必要性から7月15日の本会議で採択されました。

東京都台東区

姉妹都市

継承へ

合併後第1回の定例議会で、名誉市民条例が制定され、合併前の朝地町名誉市民・朝倉文夫翁は名誉市民となりました。

朝倉翁が東京芸術大学の教鞭を執る傍ら、創作活動を行ったアトリエ兼住宅が、

台東区谷中（やなか）にあったことから朝地町と台東区の間でも交流がありました。

姉妹都市の締結を継承すべく、芦刈市長、岩男朝地支所長、若松議長、浅野議員が7月29日、台東区長への表敬訪問を行い、これまでの文化交流や学生の相互交流の継続的実施と農産品の販売協力など、より一層親交を深め



朝倉彫塑館（天王寺口玄関）

ることを確認しました。

一般質問



生野 照雄

公立おがた総合病院
全適移行を

質問

経営状況は。

答弁 総合病院事務長

開院後、1年3カ月が経過し入院収入13億3千8百万円、外来収入6億6千万円余りで経常収入の伸びは順調と考えられます。公営企業会計準則により減価償却費・繰延勘定償却など、実際に出金を伴わない項目も費用として計上されま

質問

合併協議会での確認事項により取り組まれているか。

答弁 市長

病院診療所の取り扱いについては旧町村長間で交わした協議書にしたがい2年半以内で公営企業法の一部適用から全部適用に移行を実現します。方法としては公立医療施設評価委員会と協議します。

質問

一般会計からの繰り出しを受けずに経営はできないか、また、理想的な病院経営は。

答弁 総合病院長

自治体病院は運営性格上、不採算部門の診療科、また、行政サービスと切り離せない部分が多く、国から交付税措置・施設運営費補助金などが支出されています。経費負担の原則から地方財政計画に基づき一般会計からの繰り出しが明記されています。理想とする病院経営は医業収益のみで運営できることです。

※その他

「新市の財政状況」



“明るくきれいになりました”
地域医療の拠点として 公立おがた総合病院



橋本 祐輔

自治基本条例
住民の参加を

質問

条例作成には住民の参加が必要であり、自治体の憲法となるものである。基本的な理念と、どのような形で住民が参加し、協議し、作り上げていくのか。

答弁 市長

この条例は、まちづくりの理念や基本的な施策などについて、市民と共に共有

政策の優先順位

質問

限られた予算の配分は困難であるが、少なくとも所得の少ない方々への施策の必要性は最優先されるべきと考える。執行部の考えは。

答弁 市長

財政状況が極めて厳しいため、政策の取捨選択は、ますます困難になり、政策の優先順位を付けること自体大変難しい。これからの市政運営は、行政に関する情報を積極的に開示し、住民との情報の共有化を進めた上で、政策の順位づけをしていかなければならない。

農業政策

質問

総合的農業政策の立案、

答弁 産業経済部長

実施については関係各機関との連携を密にし、効率的に行なわれるような方法にすべきではないか。

市と農業協同組合が参画し共通認識を持ち、それぞれの役割分担を果たしながら振興に取り組んでいくことが大切であると考えます。今後、県並びに農業協同組合など関係機関と緊密な連携を図りながら、十分研究・検討を進めていきたい。

※その他

「行財政改革の具体策」
「公立おがた総合病院の今後の展開」



むれ牟礼（三重町）のJA施設
ピーマンなどの集出荷をしています



佐藤 生稔

行政改革アクションプランの策定を

質問

事務事業の再編整理と民間委託及び民営化、職員の削減と給与の適正化及び組織改革、おがた病院改革などを計画的に解決するため、行革プランの策定を急ぎ、年限を切つて集中的に取り組まなければならないと思うが、どうか。

答弁 市長

行革審議会を設置し、行財政改革実施計画を策定して実行に移す考えです。

質問

財政収支見通しの公表

行革は市民と職員に痛みを強いる。3年でつづれそうな新市の財政状況を公表し、危機感と改革の必要性を市民と共有する必要があると思うが。

答弁 総務部長

財政状況を市民にわかりやすく公表し、理解と協力が得られるよう説明します。

監査機能の充実を

質問

公金の不正使用や無駄使いが問題となつている。監査委員には、公正で効率的な行政の確保と最小の経費で最大の効果を上げるよう監査・指導する責任があると思うが、充実策は。

答弁 市長

条例で監査事務局を設置し、職員3人体制として機能充実を図っています。

市総合計画は

質問

真の住民参加を求め、自前の計画づくりでなければ意味がないと思うが。

答弁 企画部長

審議会や「まちづくり市民会議」を設置し広く市民の参加で自前の計画書づくりをします。

※その他

「環境政策」



未来のまちづくりを考えます（企画部）

質問

市民参加の具体的方策は

市民参加には定義も法規もありません。市の行政執行における仕事の手伝いをする場合の参加と、「企画・計画・立案」の段階における参加の2通りある。



深田 正和

市長から市民に意見を尋ねる「諮問形参加」と市民団体などから意見や希望を述べる「建議形参加」がある。

この「建議形参加」こそが対話による住民主体の協働のまちづくりになると思うが、具体的対策を伺いたい。

答弁 市長

市民参加と協働は市政運営の基本姿勢であり市民と対話することで市民が何を考え、何を要望しているか把握し政策立案に取り組みでいきたい。

参加と協働の具体策については先進的な事例を研究し市の実情に即したものにすため検討期間が必要です。市の主要な事業の計画づくりについては、各種審議会、委員会など幅広い市民参加を求めたい。

各町の「まちづくり委員会」が市民参加と協働を進める拠点として、充実した活動ができるよう支援します。

質問

行政が的確な情報提供し市民の知る権利に配慮すると同時に市民参加を求めるため、早急に市が当面目指している、行政の方向性と取り組む課題を住民にわかりやすく示す必要があると思うが。

答弁 市長

すでに内部協議をかさねており、6月議会終了後に各町に出向き市民との対話をかさね、今回の企画の中での主要な部分について説明し意見をお聞きしたいと考えています。



我が町の地域づくりは私たちの手で（清川町）



恵藤 千代子

少子化の打開策

質問

思い切った施策が必要であると思うが。

答弁 保健福祉部長

最重要課題と考えている。旧7町村の次世代育成支援地域行動計画の基本理念や目標を尊重しながら、新市の行動計画を年内に策定し、安心して子どもを産み心身ともに健やかに育つための環境づくりなど、平成18年度に実効ある事業を行いたい。

旧町村で差異のある保育サービスは平準化に努めます。第2子3歳未満児にここの保育支援事業は、県も推進しているので今後検討します。



質問

男女共同参画社会の実現について。

答弁 市長

社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の推進を図っていくことが重要であり、「豊後大野市男女共同参画推進条例」を本議会に上程しています。推進体制を整えていくため、基本計画を策定し、より具体的、計画的な取り組みに向けて努力します。

質問

各種審議会での女性委員や、市職員の女性管理職の登用について考えを伺う。

答弁 市長

男性、女性のバランスのとれた審議会づくりをめざし、女性委員の登用を積極的に進めていきたい。市職員の女性管理職の登用は、自治体の使命として努力していきたい。



“おやつ”は何か？ (緒方保育園)



神志那 宗作

お年寄り・障害者への福祉サービスの復活を

質問

豊後大野市は、住民3人に1人が高齢者です。高齢者が住みやすいまちにするために、高齢者憲章をつくり、敬老祝金、金婚式、敬老会補助、重度障害者医療費助成3級、手話ボランティア養成事業などを復活させてはどうか。

答弁 市長

高齢者憲章は、市民憲章の制定とともに検討します。合併で廃止した制度の復活は困難です。高齢者や障害者を、「地域ぐるみで支える」地域福祉のあり方を今後十分検討します。

子育て支援・教育条件整備を

質問

昨年の出生者は286人、死亡者は591人で、305人の人口自然減です。結婚・出産祝いを復活し、30人学級拡大、複式学級解消につとめるべきと思うが、どうか。

答弁 市長

結婚・出産祝いの復活は考えておらず、それに変わる新たな制度を総合的に検討していきたい。

答弁 教育長

30人学級拡大は、国や県に強く働きかけていきます。複式学級解消のため、上緒方小2名、小富士小2名、長谷小1名の市単独の教員を配置しています。

住民が主人公の行政を

質問

市役所に行った市民から、さまざまな苦情を聞きます。「市民への奉仕者」としての自覚を徹底すべきと思うが、どうか。

答弁 市長

合併で職員に戸惑いがあったことは事実です。職員全員が市民の奉仕者としての自覚を高めるために、職員倫理規程を制定しました。常に市民の目線に立って、親切的な対応をするよう機会あるごとに指導を行ってまいります。 ※その他 「公立おがた病院の経営改善」



昨年まで実施されていた金婚式

政治姿勢



後藤 章子

質問

住民が主人公の開かれた市政を。

答弁 市長

「住民が主人公の開かれた市政」は、私の選挙公約でもあり、基本的な政治信条であります。住民に厳しく、身内にはお手盛りの行政ではないかと、ご指摘を受けることのないよう、執行部をはじめ職員一同、気持ちを引き締めて誠心誠意取り組んで行きます。

質問

支所機能の充実・強化について。

答弁 総務部長

今後の地域審議会や行革審議会の意見を踏まえて総合計画の中で検討していきたい。



改良が待たれる県道緒方・朝地線の
小野トンネル付近

質問

朝地・緒方間の早期整備と住民の交通手段の確保を。

答弁 建設部長

本路線の未改良区間は高規格道路との関連があり、県の方も状況を見極めながらとなっているが、合併によつて地域間格差が生じないように整備に努めていきたい。

交通弱者の生活の足としての交通手段の確保は喫緊の課題であり、コミュニティバスの運行形態を含み運行全般にわたり抜本的な見直しを検討していきたい。

質問

国保被保険者の低所得者救済対策を。

答弁 市長

低所得者の一部負担金の減額免除は、内容などを調査検討したい。災害その他の特別な事情がある場合には、条例により保険税を減免することができません。

※その他

「福祉制度の復活」



羽田野 昭三

老人保健施設の設置を

質問

旧大野郡に認可された老人保健施設の設置に対するこれまでの経過と今後の対応は。

答弁 保健福祉部長

大野圏域では整備目標298床のうち現在248床が整備され、50床が未整備



充実が待たれる「老健施設」

質問

老人保健施設の設置の今後の対応について。

答弁 保健福祉部長

平成16年度末に旧野津町から要望はなく、本市において調整を進めながら早期に結論を出していきたい。

農林業振興の施策は

質問

高齢化・後継者不足の農林業振興にどう取り組んでいくのか。

答弁 市長

産業振興の施策として、集落営農の組織化、法人化、企業的農業者の育成、農業公社も担い手として、活動エリアの拡大や、効率的運営に取り組みます。「安全・安心な食の提供」を行うとともに県、農協生産組織と連携し、消費者ニーズやマーケティングを考慮し、生産から販売まで一貫した産地をつくらします。

※その他

「各種イベント」





宮成 昭義

大丈夫か 国体受け入れ

質問

大分国体で、市は5競技（馬術・剣道・山岳・カヌー・少年男子ソフト）を受け入れ予定である。財政の見通しはどうか。

答弁 教育次長

過疎地域自立促進計画の中で20年度までの4年間で概算事業費として6億3千3百万円を計上している。歳入として見込める金額は半分程度で、現状の財政状況から判断して非常に厳



翔け 期待の星
“大分国体に向けて”

しい。

国体を成功させるために最小の経費で最大の効果を挙げるように努め、今後は、競技団体・県国体局と協議し予算編成に努力します。

どうする

施設や公用車

質問

各支所の空き部屋の活用は。

答弁 総務部長

資産の有効利用と周辺地域の活性化に資する観点から早急に検討し、市民の憩いの場や生涯学習、健康福祉の拠点として整備充実を図りたい。「まちづくり委員会」に、活用方法を検討をしていただきたい。

質問

公用車及びマイクロバスの利活用は。

答弁 総務部長

旧町村の首長専用車7台うち、2台はそのまま使用し、5台は解約や処分予定で、5台は解約や処分予定です。

マイクロバス使用は道路

運送法に抵触する部分、或いは公平性などを考慮し、統一見解のもと使用を許可しています。

※その他

「市の体育協会の設置」

「教育行政に関する各種委員などの組織化」



小野 順一

住民の足となる

交通手段は

質問

コミュニティバスの運行委託地域があるが、従来の路線バス運行補助は。

答弁 企画部長

コミュニティバスについては、市が運行計画の中心になって公共交通機関の無いあるいは不便であった地域にバスサービスを提供し、住民福祉の向上を図るために導入してきたものです。

本市のコミュニティバスの運行については清川町・緒方町・大野町の区域であり合併前の運行計画をそのまま引き継いでいます。

路線バスの運行補助については平成17年度に三重町3路線、三重く清川く緒方1路線、朝地町1路線、大野町1路線、千歳町1路線、犬飼町3路線の計10路線、1千25万円の助成を行っています。

どちらに重点を置いて

質問

今後の対応はどのように考えているのか。

答弁 企画部長

新市の人口構成並びに人口推移を考えますと今後高

齢化が急速に進んでいくものと予想され、生活の足としての交通手段の確保は極めて重要であると考えています。



過疎地域に必要なコミュニティバス “助かります”

民間会社が運行する既定路線の維持に積極的に努めます。廃止路線におけるコミュニティバスの運行など、合併の調整方針に基づき運営形態を含み運行全般にわたり抜本的な見直しをコミュニティバス運営協議会で検討したいと考えています。



安藤 豊作

新市の行政施策は

質問

周辺地域の対策は。

答弁 市長

三重町中心部は人の集中により活気や賑わいが考えられます。反面旧町村ではこれまで以上に過疎高齢化の進行や、まちづくり推進に影響が出てくると思います。今後このような状況を踏まえ、住民の利便性を図り交通や情報のネットワーク、住宅、上下水道の生活基盤の整備を図ります。

質問

常備消防及び消防団体制の施策は。

答弁 市長

常備消防体制は、朝地町・緒方町を竹田市に事務委託しているが経過措置でありこの解消に向け白杵市、

竹田市と同一期に解消の方向で協議します。広域化の流れを十分視野に入れ、早い機会に市長レベルの話し合いの機会を設けます。

答弁 総務部長

連合消防団制については、合併協で統合する事で確認されています。市消防団一本化に向け現在調整しております。調整が整い次第統一します。

質問

農業重点施設に関して。

答弁 市長

担い手の確保を最優先します。基幹となる認定農業者の育成、集落営農の組織化・法人化さらには企業的農家の育成を推進します。

農業公社については、清

川・緒方・大野・朝地の4公社を18年4月の合併に向けて準備を進めています。

答弁 産業経済部長

指導体制については1市1農協の体制が整いました。関係機関と緊密な連携を図り、市が責任を持って体制作りを行います。



市民の安全と安心を担っています 豊後大野市消防本部



三浦 正吉

合併メリットが生かされていない市政運営

質問

新市がスタートして3カ月が経過した。住民の声は福祉サービスの低下などで圧倒的に市政に不満の声が高く合併メリットが生かされていない。政策は。

答弁 市長

合併メリットは、「利便性の向上」・「サービスの高度化」・「財政の効率化」などであります。市民の全面的な協力、参加が不可欠であり「協働・共創のまちづくり」を進める中で政策の構築を図ります。

豊後大野市を

大きく売り込もう

質問

市民意識の向上も大切です。これからは自治体間での競争の時代です。知名度のアップは重要である。行政としての取り組み施策は。また、他団体、組織などでは統一がされていないが指導は。

答弁 市長

意識の変革はすぐには困難ですが、イベントやスポーツを通じ交流事業の中から醸成を進めます。また団体、組織についてもアドバイスを行ない統一へ推進します。

大野地方振興局は
新市に必要な

質問

県は地方機関の再編を進めており、豊肥地域での振興局を1箇所にする方針である。振興局の有無は地域産業の振興・発展に影響するし、また新市のまちづくりにも困難をきたす。対策は。

答弁 市長

県に対し強くアピールし熱意を伝えていきます。議会・市民・行政を挙げて行動を起こします。



存続をめぐって 今 渦中の“大野地方振興局”



衛藤 竜哉

新市の交通体系・住宅環境の現状と見直しは

質問

道路交通網の改修、改善は。

答弁 建設部長

中心部の幹線はほぼ完成していると思いますが、周辺部では多くの箇所改修の必要性を感じています。中九州横断道路の早期完成や国道、主要県道などの早期整備を国や県に働きかけます。アクセス道路も新市まちづくり計画の中で道路整備計画を策定し循環型道路網の整備を図っていきます。

質問

市営住宅の拡充、改善は。

答弁 建設部長

住宅整備は、高齢者・障害者に優しい住宅や若者の

定住促進をはじめUターン・Jターン・Iターンなどの受け入れのため良質な高品質な住宅の整備が求められています。財政状況などを考慮し、計画的に実施していく必要があります。需要と供給のバランスの動向などを検討し、住宅整備の拡充を図ってまいります。

市職員の適正配置は

質問

市職員の配置状況は。

答弁 総務部長

現段階では、必ずしも適正とは言えませんが、職員にアンケートを取るなどして状況把握に努めています。組織機構の見直しのため検討委員会を設置し複眼的な視点からの協議を進めています。毎週、部長会議を開き、部署間相互の連携を図るための協議を行っています。



間もなく完成の久原(犬飼町)住宅



衛藤 正宏

市長の基本的な施策を伺う

質問

周辺部の不安や懸念を解消するための具体的な施策は。

答弁 市長

この重要な課題に取り組むため本年過疎地域自立促進計画を策定し、市の総合計画を予定しています。

また、県の「合併地域活力創造特別対策事業」として、地域と協働で取り組むサポート体制も整ってきています。

質問

過疎自立計画案は旧町村の特徴を活かしているか。

答弁 企画部長

本計画は旧町村で十分に議論され、その特徴なり意向は反映されているものと思います。市全体を見渡した中でそれぞれの地域振興策が全市民から納得を得られているかが、問題として浮上してきます。

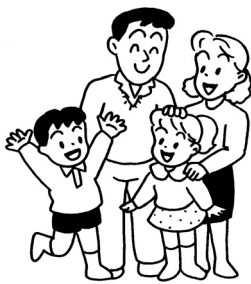
この点については議会とも十分協議し事業の見直しなども行いたい。

質問

新市まちづくり計画を基本に市民が安心して期待できる総合計画をつくるべきと思うが。

答弁 企画部長

新市建設計画をひとつの拠り所として豊後大野市が誕生したわけですから、この建設計画が今後策定する総合計画の基礎となります。このようなことから市民が安心して暮らせるまちづくりを行なうため、マスタープランである総合計画の策定を最重点事業として位置づけています。



可能性が広がる地域高規格道路（千歳～大野間）



赤嶺 謙二

豊後大野市の未来は

質問

希望の持てる新市とするために何が必要か。

答弁 市長

「市民が参加する協働・共創のまちづくり」を基本として、目標達成のため全市を挙げての取り組みが必要です。その前段としてスケールメリットを活かした経費の削減、組織・機構の再構築、職員の適正な人事管理や配置といった行財政基盤の強化が必要と考えています。

質問

新設高校への取り組みは

来々年4月から新設される総合選択制高校を、本市を代表する高校として育てるために保護者と住民の意見・要望などを集約する組織・団体の構築は。

答弁 教育長

市としても応援的な組織を検討し、高校問題に取り組みたい。

公立おがた総合病院

質問

「公立医療施設評価委員会」の設置はいつ行なうのか。また、位置づけと具体的な任務は。

答弁 企画部長

早急に委員会を立ち上げたい。位置づけは執行機関の附属機関であり、任務は地方公営企業法の全部適用への移行状況や経営状況の検証を行ないます。

質問

2巡目国体の負担

大分国体の本市での開催種目と負担額は。経済効果は。大原総合グラウンド利用者への支援は。

答弁 教育次長

馬術7千6百万円、剣道1億9千万円、ソフトボール1千6百万円、山岳2千3百万円、カヌーは県が負担するので市の負担は無い。

その他としてトイレなどの設置に数千万円、合計3億円を超える。経済効果は、1億6千万円以上を見込んでいます。大原グラウンド利用者への支援は、代替地として県に2カ所要望しています。



来々年4月開校の新設高校建設現場
(三重農業高校東側)



清田 満作

基本構想は？

自治会をどのように

質問

施策推進の基本的構想と方向性を問う。

答弁 市長

基本方針は行政基盤の強化、個性と魅力ある地域づくり、生きがいと安らぎ、快適さを実感できる里づくり、働きがいのある産業基盤づくりを考えています。

質問

地域の自治会や地域審議会と行政の連携は。またいかにして地域の活力を結びつけるのか。

答弁 企画部長

市からの依頼事項や地域の問題を連絡していただくなど自治会と行政との連絡調整を緊密に図りたい。まちづくり委員会は住民の声を反映する重要な役割を担っており、その答申内容は今後、十分に活用していきます。

質問

合併協議の確認項目をさらに検討し、施策は住民の必要性、利便性に重点を置くべきです。

答弁 企画部長

基本的な方向性は堅持し、

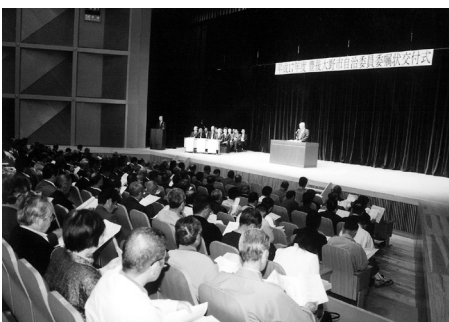
市民の要望意見を最大限汲みいれ、現実的な施策に努めていきます。

質問

安全・安心な食糧基地としての産業振興策、また福祉施策は旧町村での取り組み、特性を活かすべきだ。特に高齢者や社会的に弱い立場とされる皆さんへの対応が重要と考えます。

答弁 市長

産業、福祉施策はこれまでの各地域の特性を活かした施策は尊重したい。高齢者をはじめ、自立生活を支援する事業は優先的に実施します。



自治委員さん お世話になります
(委嘱状交付式)



宇薄 克哲

市民憲章は

質問

新市発足に伴って新しい憲章をつくり、市民の一体的な協調を図るべきであり、制定委員会を設置して準備したらどうか。

答弁 企画部長

市民憲章制定の意義は「まちの理想像を揚げて空間環境的な達成目標を示す」と「個々人の生活を快いものにするための社会的な努力目標を示す」とにあると言われております。

合併協議の中で「新市の基本姿勢となるものであり、市民相互の連帯感や共感を醸成するためにも、できるだけ速やかに制定されるべきである。」と確認されている。速やかに制定準備に取りかかり、委員会を設置し早期制定に向け努力したい。



立派な“ゴーヤ”じゃなあ
JAぶんご緒方集出荷場

農協と提携を

質問

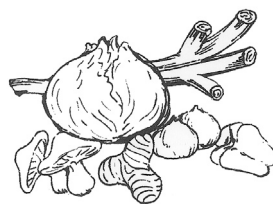
豊後大野市を1つの単位とする農業振興策を策定し、推進するための「共同対策室」の設置を。

答弁 産業経済部長

農業施策の企画立案、営農指導、流通対策など各段階におきまして市と農業協同組合が参画し共通認識を持ち、それぞれの役割分担を果たしながら振興に取り組んでいくことが大切であると考えます。

新市では1市1農協となり、各種農業施策の推進に

あたっては今後県並びに農協など関係機関と連携を図りながら協議、検討を進めていきます。



高山 豊吉

どうする 農林業

質問

農林業公社の統合は。

答弁 産業経済部長

平成18年度の統合に向けた作業を進めています。

はじめに農作業の受委託をしている公社を、次に野菜の生産販売・施設の運営管理を行なう公社を対象とします。農作業の受委託は

1つの公社を存続公社とし、ほかの公社の財産及び業務を引き継ぐ方向で調整が図られています。

質問

農作業の受委託は市内全域を対象とされるのか。

答弁 産業経済部長

公社のみでは難しい。今後は農林業公社と、担い手いわゆる認定農業者、集落営農組織などがお互いに補完しあう形でできるだけすみずみまで進めます。

意見箱の設置！

質問

広域的な観点からの市中部と周辺部との均衡ある共生、発展の方策は。

答弁 市長

特に未利用の公共施設などの利活用を図ります。また、まちづくりへの住民の提案、意見をいただき周辺部対策に意を注ぎます。ご意見箱のような制度を担当部、課と協議検討します。

質問

旧町村7地域それぞれの地域内、格差が認められる。

ある地域では商店街が、またある地域では交通の便が劣る山間の農村が、近年急激に衰退しつつある。その是正は。

答弁 市長

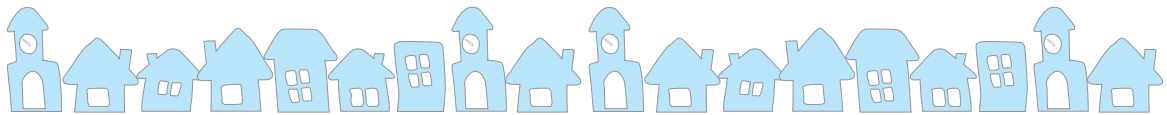
いろんな項目ごとの整備率を洗い直して道路交通網の整備、情報ネットワーク化、環境整備などに取り組んでいきます。



防除も人(ヘリコプター)の手を借りて！
農林業公社に委託

キラリ★ひと言

新市・議会に対する意見など それぞれの思いを語っていただきました



水とみどりのまちづくり

犬飼町山内

安藤 辰美

5町2村が1つになって、今年の集中豪雨の日田玖珠市長・市議選を経て執行体制も定まり、これからいよいよ新市の試練の歴史が幕を開けた訳であるが、ひとまず順調な滑り出しに成功したものと市民一同安堵しているのではないのでしょうか。

りません。

さて、ご承知のとおり全国的に少子高齢化の問題、後継者不足の問題、過疎化の問題は依然として歯止めのかからない問題であり、とりわけ基幹産業の農林業にとつては深刻であり、地域社会の崩壊の危機感すらあります。

豊後大野市は、幸いにして昔から天の時、地の利、人の和を尊び、備えもつており、大自然の中祖母傾山系の豊かな緑と、そこを源として広い台地を潤す、日本一を誇る清流大野川など多くの資源や伝統文化の華に事欠きません。

このような地に生まれ、育ち、暮らしを立てることに自信と誇りを持ち、さらに励みを覚えるものであります。

また、本県における農業の主要産地としても位置づけられ、農業基盤整備と関連施設整備が施され、高度土地利用体系による生産性の向上と、安全・安心のモノ作りが期待されております。

古来、先人達が宮々として守り、創造し、育んできたこれら宝の遺産をこれからも未来を拓く糧として、自然の営みの中で、自然とともに共存のできる豊かなまちづくりに、市民、老若男女一体となった取り組みを願ってやみません。

木を育て、林にしよう、森にせよ。

山林の荒廃が、かつてない大災害をもたらすことは、

水とみどりのまちづくり。

水とみどりのまちづくり。

キラリ★ひと言



合併に思うこと

朝地町下野

渡辺 繁子

新市が誕生して3カ月余り、急な原稿依頼には戸惑いましたが、日々の暮らしの中で思っていることを書いてみました。

まず、合併の場合、大きな市となるとどうしても中心に重点がおかれ、周辺部はあらゆる面で差がでるのではないかと不安があります。そして周辺部に進んでいる過疎化が一層進んでいくことにつながるのではないかと心配をしています。また消防についてですが、竹田広域消防署の管轄が変わる場合、消防車や救急車が来るまでの時間がとても問題だと思ひ、不安を感じています。

次にバスのことですが、

各地から三重町に直通のバスがないことです。乗り換えて市役所に行くのは不便で、直通するバスができればと願っています。

最後に合併したばかりで新市の基礎づくりに行政、議会、住民と頑張つて取り組んでいます。この文化財の多い恵まれた豊後大野市で伝統文化を継承し、かつての町村で行っていた特色ある行事を一層盛り上げ、それを地域の核として自慢できるものにしていくことも大事だと思います。ふるさと豊後大野市がこれから特色ある市として発展することを期待し、大いに希望を持っています。



自分で発信

清川町伏野

和田 鈴香

村民から市民に変わりましたが生活そのものは何も変わっていません。

しかし、日が経つにつれ意識が少しずつ変わりました。市は遠いような気がします。

自分で出来ること、仲間同士で、できることは自分たちでやらなければいけないのだということの意識が変わりつつあります。

市に何かを頼むとしたら市民の声を聞いてくれる所、機会を多くしてほしいと思います。

私は現在農業をしながら「清劇うたひめ」という劇団に所属し活動しています。

平成15年秋に発足し、2年たらずのうちに30回程度の公演をしました。年に1度の定期公演と不定期に老人ホーム、病院、デイサー

ビスセンターなどに出向き皆さんに大変喜ばれています。

8月28日には県下で2座選ばれて国東町のアスト国東で公演をします。練習は厳しくきついですが舞台上立ち、観衆を見ると演技の出来る喜びで忘れてしまいます。

各地より多くの公演依頼がきています。要請があればどこへでもかけつけます。終わりに市議会へお願いがあります。スタンドプレーはやめてほしいと思ひます。周りの意見や考え方を聞く耳を持ってください。そして市民の声の代弁者として伝えてほしいと思ひます。豊後大野市が発展するように私たちも頑張ります。



夏の熱い想い

三重町上赤嶺
赤嶺 千代

暑くなりました。常と異なることを多く感じる夏です。なぜか気持ちの上で違うのです。ふるさとは「豊後大野市」になりました。

激しく熱い政論の末、誕生した新市です。市長・市議選ともに、候補者の主義主張を真剣に聴き投票しました。それらの想いを、そっくり包み込んだ夏が来たのです。

合併の中心目標は、財政を立て直し、心豊かに生活できる新市を創ることでした。市民は、その具体的な方策や執行の在り方を、大いに注視しています。

私の周りでは、最優先課題として財政立て直しに取り組むことを、多くの方が

強く望んでいます。

そのためには新規事業を一切やめるとか、各町の既存の施設、設備を智恵と工夫で最大限有効活用するなどの声が多数です。但し安易に住民サービスを低下させたり、福祉や教育を犠牲にするようなことは欲しません。

十分に市民の声を聴き、常に市民本意の立場を忘れない、真摯な取り組みに努めてくださるよう執行部や議員の皆さんに切望します。教育施策にも重点を置いて、市の将来を担う人材育成に努め、彼等のために、誰もが誇れる「豊後大野市」を育てて残したいものです。



活力ある新市に期待

千歳町前田
戸上博之

深刻な過疎化・高齢化が進み、若者の流出・核家族化で、子どもが減少し、小・中・高校の統廃合。これと言った人口増が見込めず、最善策がないまま平成8年に、全国初の試みである「大野広域連合」が発足し、本年、紆余曲折の中、新市が誕生しました。

過疎からの脱却に向け、伝統・文化のある地域に新たな可能性を求め、スケールの大きな連携をめざし、合併で地域活性化が始まりました。

生活基盤は、道路・水道・福祉などですが、それは職場（雇用）の確保で、次世代家族の定住ができ、過疎の解消ができると考えます。

高規格道路の整備に伴い、

工業立地環境が大幅に向上することを踏まえ、将来有望な国際競争力のある企業誘致により、若者の流出を止め、消費拡大で地域商店街が活性化し経済効果が上がり、税収が増加し市民が潤い市が発展すると考えます。

首長や市議にお願いします。NPO法人やボランティア団体などと連携し、身体的障害者児に療護授産施設の建設や、地域商店街の活性化、河川的环境保護に下水道整備、交通安全対策、国体終了後も観光客呼び込みを視野に入れた道路整備、ひっ迫する財政を改善し、効率的な予算編成と経費の削減で財政運営を推進してください。

キラリ★ひと言



住民の切なる思い

大野町宮迫
吉藤 孝

個性を持った町村が1つの自治体になるには課題が山積し、新市議会にとつては多くの難題を抱えていることと思います。

しかし、「新市創造」の夢に向かって邁進されている市議の皆様には深甚の敬意と大きな期待をするものがあります。

- ① 国、地方併せて7百兆円を超える借金解消の1つの手段とも言える「今回の合併」は、過去の合併とは趣を異にしていることは万人承知であります。それだけに市政運営の良否は市民生活を大きく左右し、「地域」の存亡に関わる重大事です。国や県の合併方針では、
- ② 地域の一体的整備
- ③ 市町村の行財政基盤の強化
- ④ 社会福祉など身近な行政

サービス
④ 将来にわたる地域の持続的な発展

を主たる柱に据えています。が、この4カ月間で私も住民が感じているのは、当初心配したとおり、補助金などを含む福祉サービスと地域自治の切り捨てです。合併の柱の②「行政基盤の強化」が大企業による「大型公共工事の受け皿」になれば住民生活は破壊されます。

市議会に対する市民の願いは、国や国会議員の手足ではなく市民の目線での議会活動と党派・会派など集団の数の支配ではなく独立した政治活動です。重要な時で苦労は多いと思いますが、「明日の豊後大野市発展」のためのご奮闘をお願いします



子どもが夢を持てる市に

緒方町知田
周藤 真智子

10年ぶりに第2子を出産し育児、家事、仕事に奮闘中の毎日を送っています。10年前に比べるといろいろなことが違い、便利な点、まだまだ解決してほしいことがあります。

子どもたちが思いつき遊び場所がないこと、子育て中の母親たちが気軽に立ち寄れる場所がないこと、たとえば、赤ちゃん連れでは何をすることもゆつくりできないので、お母さんがリラックスできる時間を持つような所があればいいと思います。正直、私もそういう場所がほしいです。

時間保育や急病の時の利用できる所、少子化と言え

ど育児できる環境がないとお母さんたちも安心して産めないし、子育ても楽しくないと思います。

また、親が時間のゆとりを持った日々を送り、子どもたちに接していれば、問題になっている言葉遣いなど、改善できることがたくさんあると思います。

現実的には、なかなか難しいですが…。合併してあまりピンとこない日々を過ごしていますが、子どもたちが夢を持てるまちづくり、市づくりをしてほしいと願っています。

時間保育や急病の時の利用できる所、少子化と言え

ごあいさつ



広報編集特別委員会
委員長
高山 豊吉

みなさん、こんにちは。新市の誕生で発足した委員会です。

“新生、豊後大野”は面積も人口も多大です。夢と希望、課題と不安がいりまじっております。

市議会にも将来を見据えた『明るく元気』な地域づくりへの、積極的な動きが求められております。皆様とともに歩みたいと思います。

これまでも各町村で議会の動きや発言内容を、それぞれお伝えしてまいりました。今後の編集にあたって、市民の目線に立った議会だよりづくりに努めます。各常任委員会から2名ずつ、6名の委員が担当します。

ともすれば内容が堅くなりがちです。皆様に愛され、わかりやすく・読みやすい紙面をお届けしたく、精一杯とります。どうかご意見ご感想などをお寄せくださいますようお願いいたします。

創刊にあたってのごあいさつとさせていただきます。

その日まで

誰に言われた 訳でもなくて
自分で決めた 道だもの
勝利の二字を 掴むまで
迷いは捨てて 歩いて行こう
一路邁進 明日もまた

幾年月か 生かされている
老少不定の この寿命(いのち)
感謝のこころ 忘れずに
微力ながらも いま出来ること
地域貢献 恩返し

四季の風景 このおおの路に
希望の花を 咲かせたい
誰もがみんな 願ってる
ふるさと再生 力を合わせ
協働参加 新市(まち)づくり

※豊後大野市の誕生によせて、
みんな力を合わせながら
未来を築きたい。立候補に
あたっては、誰もがこんな
熱い気持ちだと思います。
(A)

議会広報編集特別委員会です よろしくお願ひします

◇9月定例会は
15日(木)に
開会予定です。

詳しくは議会事務局
(TEL22-1001)へ
お問い合わせください。

■広報編集特別委員会

- 委員長 高山 豊吉
- 副委員長 赤嶺 謙二
- 委員 安藤 豊作
- 委員 小野 順一
- 委員 長野 健児
- 委員 衛藤 竜哉



創刊号 平成17年 9月1日発行
発行：大分県豊後大野市議会
編集：議会広報編集特別委員会

〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場1200番地
TEL 0974-22-1001 FAX 0974-22-8101

印刷／有限会社 民友印刷社
大分県豊後大野市三重町市場238番地